

名護・やんばるの地質出版

Publication of Geology of Nago and Yambaru district, northern and central Okinawa main-island

遅沢 壮一^{1*}, 渡邊康志²

OSOZAWA, Soichi^{1*}, Yasushi Watanabe²

¹ 東北大学理学研究科地学専攻, ²GIS 沖縄研究所

¹Department of Earth Sciences, Graduate School of Science, Tohoku University, ²GIS Okinawa Laboratory

名護・やんばるの地質、フルカラー 209 ページ、10 万分の 1 (5 万分の 1 地形図を縮小) カラー地質図付きは、名護博物館から、2011 年、2500 円で発刊された。残部は少なくなっているが、増刷しない予定である。嘉手納基地、勝連半島より北の、伊江島を含む沖縄本島の主要部分(やんばる)を図示している。出版の主要動機は 1990 年以降、露頭が失われたことで、データを残すべきであると考えたことで、現在では本稿と同じ精度の調査は事実上、不可能になっている。基盤岩については、Schoonover and Osozawa (2004) に示したように、2 つのデタッチメント断層を確認している。また、本稿で初めて、名護と嘉陽コンプレックスの境界逆断層(二見断層)を記載した(既に露頭は消失)など、構造を中心に、もれなく記載している(専門家を満足させる内容)。第四系については、古気候・古海洋変動で発表する内容の、沖縄本島での基礎データとなっている。高位段丘の国頭層とより若い谷埋め堆積物の呉我層を初めて混同しないで区分した。知念層や中尾次層のとくに層位関係を明確に記載した。地域ごとに別の層名が与えられていた傾向がある琉球石灰岩を疑似段丘から対比して、那覇層として一括した。正断層(いずれも活断層)と疑似段丘の傾動との関係を初めて記載し、名護断層(沖縄トラフ拡大によって生じた半地溝;ここを呉我層、さらに中尾次層が埋積)を再認識した。嘉手納基地以外に、話題の辺野古基地も、初めて地質調査している(弾薬庫を除く)。例えば、辺野古崎沖の平島と長島は Flint et al. (1959) でも嘉陽層と誤っているが、那覇層の石灰岩である。

キーワード: 沖縄本島, カラー地質図, フルカラー解説書 209p., 名護・やんばるの地質, 名護博物館

Keywords: Okinawa main island, colored geologic map, full colored text book 209p., Geology of Nago and Yambaru district, Nago Museum